

ヤクシカ個体数調整(林道における誘引狙撃) 取組年次計画(改訂版)

カテゴリー	地域・場所	背景と課題	ヤクシカ管理計画内の年度				今期管理目標終了時点における到達目標		
			H27年度(2015年度)	H28年度(2016年度)	H29年度(2017年度)	H30年度(2018年度)			
<p>・比較的高密度な低標高地域でSSに適した林道沿い</p>	<p>・大川林道、小楊子林道等追加の可能性有</p>	<p>・シミュレーション調査(H27年度に実施)により、誘引効果、誘引状況(頭数など)、車両接近時の反応、捕獲が期待できる頭数のデータは揃っている ・捕獲(射撃)直後の行動は未知 ・捕獲の中期的・長期的な反応(警戒心の昂進や誘引効果の変化など)も未知</p>	局所的な目標と目的	シミュレーション調査の実施にもとづく「林道SS」の適用可能性を検証(済)	<p>・関係行政機関によるコンセンサス ・関係者や関係団体によるコンセンサス ・SSの安全管理体制への理解の深化 ・SSが体制論であることへの理解の深化(いずれも済)</p>	<p>実際の発砲・捕獲に対するシカの反応を把握</p>	<p>より高効率な捕獲を達成するためのブラッシュアップ(マニュアル・ガイドラインの作成に向けて)</p>	<p>◎安全管理体制の説明等により「SSとしての銃の使用」に関するコンセンサスが得られている ◎一般狩猟者とSS従事者との役割分担に関するコンセンサスが得られている(従事者のトレーニングや選抜に関わる仕組みも含む) ◎次期管理計画内(H29～33年度)での「複数の林道での実施」を含む具体的な計画が練り上がっている(モニタリング結果にもとづく数値目標を含む)→これを受けてH31年度より林道SSの本格導入</p>	
			全体的な目標と目的						
			取り組みの体制	<p>・受託業者による計画的・効果的な給餌 ・受託業者による誘引効果や誘引状況のモニタリング(事前・事後を含む) ・林道SSの経験を有する射手や記録者の参加(いずれも済)</p>	<p>・関係行政機関、関係団体の参加(現地検討会) ・林道SSの経験を有する射手や記録者の参加(いずれも済)</p>	<p>・関係機関等による実施体制の構築運営試行 ・受託業者による実施場所における計画的・効果的な給餌 ・受託業者による実施場所における誘引効果や誘引状況のモニタリング(捕獲試験の事前・事後を含む) ・林道SSの経験を有する射手や記録者の参加 ・WGメンバー、関係行政機関、関係団体の参加(実弾反応試験、住民等理解)</p>	<p>・WGメンバー、関係行政機関、関係団体の参加(説明会・報告会) ・従事候補者については、可能であればDCC(注)等による客観的審査を経ている人物が望ましい</p>		
			取り組みの内容	<p>・模擬銃を用いたの試行と記録 ・将来的に従事する可能性のある者(従事候補者)への説明(非公開・非公式) ・環境省に対する説明と報告(非公開・非公式)(いずれも済)</p>	<p>・SSIについての理解促進、課題抽出と解決方策の検討、整理、認識共有 →SSとは？、富士山国有林での先行事例、SSで求められる技能、安全対策等についての講義 →富士山チームによる小楊子林道24支線でのモデルガン、シカパネルを使ったデモ →次年度SS(実弾反応試験)を実施する場合の実施体制についてのグループ討議(いずれも済)</p>	<p>・模擬捕獲の実施をともなう、WGメンバー、関係行政機関、関係団体に対する現地説明(第1回WG時) ・シミュレーションによる従事候補者のトレーニングの試行 ・関係者のコンセンサスのもと、冬期における実際の捕獲試験(2ラウンド程度で従事候補者は同行) ・発砲時のシカの反応を確認し、林道SSの適否を最終確認(「否」となる事もあり得る)</p>	<p>以下は林道SSが「適」とされた場合 ・シミュレーションによる従事候補者のトレーニングの本格化 ・2回目の捕獲試験(複数ラウンドの繰り返しでセレクトした地元従事者も参画)一翌年度のモニタリングで成果が出るレベルの捕獲を目指す ・公開・公式の説明会と報告会 ・他の適用場所の抽出(誘引試験を実施可能であれば捕獲試験も実施)と実施計画(ローテ、路線ごと体制等、指定管理鳥獣捕獲等事業、生態系維持回復事業等)の検討 ・林道SSのマニュアル・ガイドラインの作成</p>		
			WG内での報告と協議	<p>・適切な体制整備にもとづく林道SSの導入により、一定の成果が見込まれる可能性を報告 ・導入の是非の確認ならびに意見聴取(いずれも3月開催のWG時)</p>	<p>・現地検討会結果概要を報告するとともに、次年度複数林道において実弾反応試験を実施する方向で取り組みを進める旨説明。捕獲試験の実施に関するコンセンサスを得る。(H29.2/1第2回WG)</p>	<p>・捕獲試験の結果や考察を報告(第2回WG時)</p>	<p>以下の3項目を第1回WGにて協議・確認 ・林道SSがヤクシカ管理に有効なオプションの一つであること(あるいはその逆であること) ・有効なオプションであれば、導入に関わる諸条件 ・事業としての実施体制の明確化(指定管理鳥獣捕獲等事業、生態系維持回復事業等を念頭に置く)</p>		
アウトリーチ			<p>地域住民、観光関係者等への保護地域内でのヤクシカ管理(林道等SS)に関する説明会</p>	<p>一般公開の説明会・報告会として、第2回WG後の講演会あるいは屋久島学ソサエティでのシンポとして</p>					
		備考・注		<p>・H28.1/23の協議結果(H28年度中に発砲を伴う試行)に基づき立案</p>	<p>・「林道SSの有効性が確認された場合は、H30年度を目処にこれによる捕獲を本格化(H28.1/23の協議による)」をもとに立案 注: DCC:http://www.yezodeer.com/DCC/kickoff/kickoff.html</p>				